



TNFD開示は実務を映しているか
パーム油調達ベンチマーク調査から見た課題

WWFジャパン 金融グループ長
橋本 務太

2026年10月6日
WWFジャパンウェビナー

©JamesMorgan/WWF

なぜ今、パーム油調達をTNFDで見るのか

- TNFD対応が企業・金融機関で急速に進展している
- 一方で開示は増えているが、実際の取組状況は見えにくい
- パーム油は森林破壊や土地利用変化との関係が深く、自然関連リスクを考える上で重要なコモディティ
- 「何を開示しているか」だけでなく「何を実行しているか」を確認する必要がある



©WWF Japan/Mutai Hashimoto

ベンチマーク調査の考え方

TNFD提言・各種ガイダンス

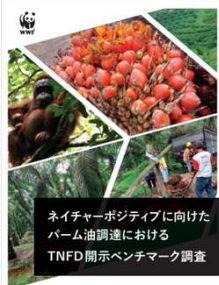


企業による公開情報



? 取り組みの実態は?

14設問・ベンチマーク調査



記載の有無だけではなく、取組の質を段階的に評価

- ・ 企業が次に目指すべき改善方向を提示
- ・ ★★★★★は現状のベストプラクティスであり到達点ではない

※なお、実際の取組があっても開示が無い場合は低評価になる

設問毎のクライテリアの目安

- ★「取組開始」
- ★★「取組実装段階」
- ★★★「概ね先進的といえる取組」
- ★★★★「現状のベストプラクティス」

パーム油×TNFD ベンチマーク調査 | 調査概要

調査目的

1. 開示状況の把握
2. 実務対応の把握
3. 今後の方向性提示

調査の特徴

- TNFDを基に14の評価設問を設定
(各設問の背景をAnnexに記載)
- TNFDをパーム油調達の実務に翻訳
- 開示の有無だけでなく、実際の取組水準を評価
- TNFD開示以外の公開情報も確認
- 対象企業による事前レビューを実施



<https://www.wwf.or.jp/activities/lib/6387.html>

27

対象企業
パーム油を多く使う日本企業

14

設問数
TNFD×パーム油調達の実務

10→2

方針と実行のギャップ

NDPE方針	★★★★10社
方針適合の確認方法	★★★★ 2社

調査対象

商社・製油メーカー（8社） : 伊藤忠商事、植田製油、花王、J-オイルミルズ、日清オイリオグループ、不二製油、三井物産、ミヨシ油脂
メーカー・小売流通（19社） : アサヒグループHD、味の素、ADEKA、イオン、カネカ、カルビー、キリンHD、コーセー、資生堂、すかいらーくHD、セブン＆アイ・HD、センショーHD、東洋水産、日清食品HD、フジパングループ本社、明治HD、山崎製パン、ライオン、ロッテ

結果① TNFD開示や調達方針は前進している

- 自然関連情報開示に取り組む企業は増加
- 調達方針のレベルも国際的な水準に達している企業が10社
- 「何もしていない状態」からは明確に前進している

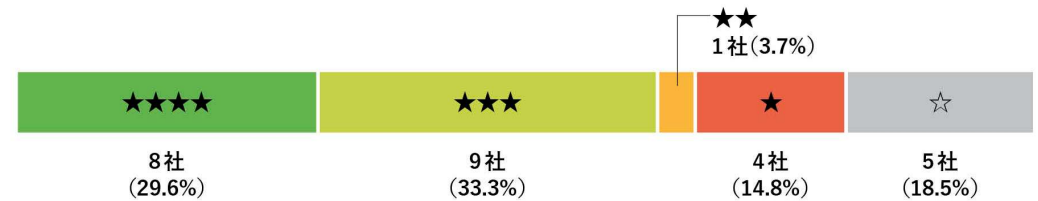
17社 (63.0%)

TNFDに沿った開示で
★★★★以上

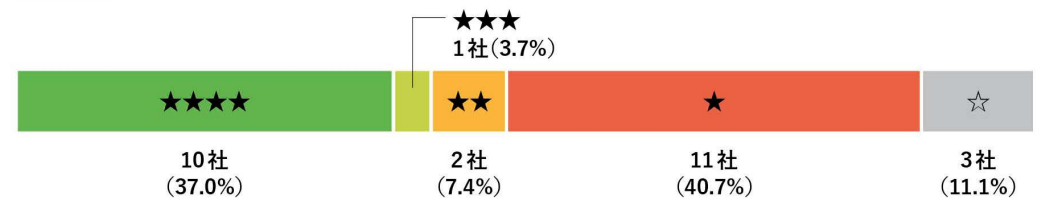
10社 (37.0%)

国際的に整合した
パーム油調達方針
(★★★★)

設問1 TNFD提言に沿った開示を行っている



設問6 森林破壊ゼロまたはNDPEを達成しうるパーム油調達方針がある



結果② トレーサビリティが最大のボトルネック

- 課題の根本にトレーサビリティ不足
 - 原産地やサプライチェーンを把握できない
 - リスク評価ができない
 - 優先地域を特定できない
 - NDPE達成を確認できない
- リスク管理の出発点はトレーサビリティ
- サプライチェーン上流では農園の確認方法、下流では取引先への「聞き方」に改善余地

14社 (51.9%)

トレーサビリティ
未確認

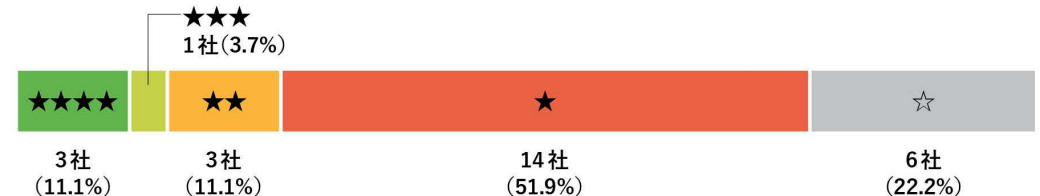
設問3 農園までのトレーサビリティを確認している



設問9 パーム油生産に関連した優先地域を特定している



設問2 サプライヤーエンゲージメントを通じた情報収集をしている



結果③ 開示と実態のギャップ

- 開示内容に比べ実務対応は限定的
- 方針があっても運用まで実装されていないケースが多い
- 方針に対する適合確認の仕組みが不足
- 目標や進捗管理まで実施できている企業は限定的

2社 (7.4%)

信頼性の高い
NDPE確認

設問 10 信頼性の高い森林破壊ゼロまたはNDPEの確認方法を設定している



設問 12 森林破壊ゼロまたはNDPEの達成目標年を設定している



設問 14 森林破壊ゼロまたはNDPEの達成度を公表している



金融機関は水面下を見る必要がある

- TNFD開示
- NDPE方針
- 認証油調達

金融機関の対話

従来の確認事項

- TNFD開示の有無
- NDPE方針の有無

見落としがちな論点

- 実際に機能しているか
- 達成状況はどうか

- トレーサビリティ
- サプライヤー
エンゲージメント
- グリーバンス
- 優先地域分析
- 進捗管理

対話の高度化

これから確認すべきこと

- トレーサビリティは
どこまで追跡できるか
- NDPEをどう確認するか
- 進捗をどう管理するか

対話の具体例

- 農園を把握できているか
- サプライヤーに何を
聞いているか
- リスク地域を特定してい
るか
- 達成率はどのくらいか

ポイント

開示の有無ではなく、リスクを把握・管理できているかを問う

まとめ：開示から実務へ

- 調査で見えたのは「開示と実態のギャップ」
- TNFDは開示フレームワークだが、本質は実際
の取組改善と、ネイチャーポジティブに向けた進展
- パーム油調達では
 - トレーサビリティ
 - サプライヤーエンゲージメント
 - NDPEの実装が重要

開示の有無ではなく、事業会社・金融機関ともに
リスクを把握・管理できているかを確認する必要



©WWF Japan/Mutai Hashimoto



©WWF Japan